

## 〔国際会議開催〕

申請者	大阪府立大学 教授 瀬田 和久	2155012
国際会議名称	11th International Conference on Knowledge Management	
開催期間	2015年11月4日～11月6日	
開催場所	i-site なんば 大阪市浪速区敷津東 2-1-41 (大阪市浪速区)	
申請者の役割	(現地) 実行委員会委員長	

## 概要 :

知の創造活動のプロセスを明らかにするとともに、これを促進する知の管理技術は、組織経営の現場で盛んに導入され実践事例も豊富に蓄積されるに至っている。ICKM 2015 は、知識マネジメントに関する理論・応用・実践の総合的視野から研究交流を促すことを目的として開催した。

各日にキーノートスピーチを設定し、初日は日本から豊田紡織会長、豊田周平氏による「The Only Way of Our Growth Based on Craftmanship in Manufacturing」、2日目はアメリカよりジョージア大学教授 Amrit Tiwana 氏による「Knowledge Management in the Era of Big Data: Problems and Opportunities」、3日目はマレーシアから MIMOS 教授、Dickson Lukose 氏を招聘し「Application of Semantic Technology in Knowledge Management」と題したご講演を頂いた。一般セッションは、2セッション並列で実施し、フルペーパー 38 件、ショートペーパー 18 件の講演があった。また、初日に開催したポスターセッションでは、19 件のポスター発表があった。

目的思考の情報交流を促すため、主として①知識マネジメント一般のトピックに加え、②知識マネジメントにおける教育・学習の役割、③組織知・個人知管理のための学習分析、④ビッグデータ・IoT時代のデータサイエンス技術、⑤知識マネジメントにおける情報ネットワークアーキテクチャに関するオーガナイズドセッションから組織するプログラム構成とした。

会議2日目には、ホストである大阪府立大学、中百舌鳥キャンパスが位置する堺市の伝統工芸、堺打刃物の製造工程や仁徳天皇陵、お茶室などを見学し、日本の伝統技能やマインドに触れて頂く機会を持ち、研究者交流を図るバンケットを催した。

また、Best Paper Award に加えて、若手研究者育成のため、35歳未満の発表者を対象とした Best Young Researcher Award, OPU President Award, Best Poster Presentation Award, 学生の発表者対象の Osaka Prefecture Governor Award および Sakai Mayor Award の各賞を授賞した。